

船橋市社会科セミナー通信 第154号

7.12土報告

勉強会会場はいつもの「フランドワ-船橋」。

今回の出席者は、①会場担当で事務局長の大野 肇先生(行徳高校)と②佐藤一巳(習志野台第一小)③豊田裕美(大穴小)④武井剛(古和釜小)⑤中谷佳子(飯山満小)の各先生と⑥会長の池田(前原中と二宮中で初任者指導)の合計6名。今回は残念ながら目標の10名には遠く達することができませんでした。

1本目:新聞づくりの総仕上げの授業

中谷佳子先生(飯山満小)

中谷佳子先生の新聞づくりの授業が、2014年1月23日付けの朝日新聞の「教育2014授業拝見」欄に掲載されました。以下はその新聞の記事です。中谷先生は、その時の授業を含めた、千葉県の特色を子どもたちにつかませる授業の全容を紹介してくれました。



朝日新聞の記事↓

「皆さんに『非公認』の千葉県観光大使になってくださいとお願いしました」4年3組34人の教室、中谷佳子先生(35)がそう切り出した。「何を作ったんですっけ?」と確認すると、子どもたちは「知っとこカードです。」

家族や知人らに「千葉県といえば」で連想することを聴き、インターネットや図鑑などで調べたことをイラストとともに書き出させたものだ。

これをもとに千葉県の特色や魅力を紹介する壁新聞を作るのが、授業の最終目標だ。

「みんなに調べてもらったものを多かった順にランキングしました」。先生は大きな地図を広げ、順位を発表した。「海」「チーバくん」「ふなっしー」「ディズニールゾート」「落花生」……。それを受けて子どもたちは調べたい内容を次々と発表。地図上の当てはまる市町村にカードを載せていく。

「どんなことを調べたら特色が伝わるか。これすごいなことない?」と先生。子どもたちは「野菜の産地です」。さらに「そういうのをなんていう?」と尋ねると、「農業!」と元気な声が帰って来た。

先生が心がけるのは、子どもたちの意欲をいかに継続させるかだ。社会的な事象をつかむ→資料やネットなどで調べる→調べたことをクラス全体で確かめる→学んだことをまとめる、の順に授業を進める。

途中で分からないことは当事者に取材する機会も与え、最終的に新聞という形で成果を残す。出来上がった新聞が「次はもっといい新聞を書こう」「親にも読んでもらいたい」という思いにつながる。

先生は「すべての裏には働いている人や住んでいる人たちがいることをわすれないように」と締めくくった。今後は班にテーマを振り分け、取材に取り組む。

- 1 研究主題：学び合いを深める社会科学習をめざして ～「千葉県の様子」の学習を通して～
- 2 研究仮説：調べる意欲を高め、「調べる」学習に取り組ませ、それぞれがまとめた新聞を活用して交流し合う場を設定すれば、学び合いが深まるだろう
- 3 仮説について(省略)
- 4 研究の内容と実践
 - (1)【つかむ段階】

「千葉県の様子」は、自分たちの住む県について学んでいく単元である。そこで導入に、児童には「千葉県韓国大使(非公認)になろう」と話した。すると児童から「新聞で千葉県の良さを伝えようよ」「誰か公認してくれるかな」という声があがった。そこでまず自分たちが、千葉県についてしっかり調べなくてはいけない」ということで、以下のように学習問題を作った。

学習問題：<千葉県とは、どのような県なのだろうか>

(2)【立てる段階】

- ①アンケート用紙をもとに「千葉県といえば」思いつくことをインタビューする活動を行わせた。(1人が10人にインタビューしよう)

- ②アンケート10人分から各自が「これはすごいな」と思ったことについて、小さなカードを1枚作らせて調べた書かせた。
[以下の③④⑤が朝日新聞紹介の授業場面]
- ③カードができたところで、「千葉県といえば」アンケートの多いもの順ランキングの発表を行った。自分の調べたものがでたら、模造紙6枚の大きな白地図の上に、「調べましたー」と言って自分のカードを置かせることにした。
- ④カードでいっぱいになった地図を見て、どのようなことを調べたら、千葉県の良さが伝わるか、調べる観点を考えさせた。「伝統工芸」「施設」「農業」「漁業」「交通」「自然」の6観点で調べることになった。

(3) 【調べる段階】

①調べ学習の資料集め

- 1) 他市の副読本（「私たちの○○」） 2) すすむ千葉県 3) 千葉県庁の千葉県PR用の各種パンフレットをクラス分 4) 図書室から関連の本 5) インターネットで

②6観点別6班に分かれて新聞の作成（班内でさらに分担して1枚ずつ作成）

③できた新聞をつかってポスターセッション

- 1) ポスターセッションのやり方は、国語の単元にあるため、手順は国語の教科書でおさえた。
2) 先行していた新井先生のクラスに見せていただき見本としたり、自分の暮らすの発表会に招待したりして交流を図ることができた。
3) 新聞の文字はポスターセッションには小さいことがあったために、大事と思うことは画用紙に書き直したり、クイズを作ったりして工夫していた。

(4) 【確かめる段階】

以上の調べとポスターセッションから分かったことをもとに、「わたしたちの船橋」や「すすむ千葉県」で補って「千葉県とはどのような県なのだろうか」を6つの観点からあきらかにする学習をおこなった。

[まとめ]

4年生の1年間にわたって、社会科は5つの単元で個人新聞や班新聞をつくって、調べて確かめる学習を行った。「新聞づくり学習」を行って思ったことは、新聞づくりによって、書くことの意欲が増したり、表現力が向上したりということの他に、何よりもすごいのは、新聞づくりを通して社会科が好きになり、社会のことを調べて発表してみたいという意欲がほとんどの児童に高まったということである。子どもたちは一つの単元が終わるごとに次も新聞づくりがやりたい、次はどんな新聞をつくろうと楽しみにする状況が1年間続いた。中には、最初は面倒くさそうに取り組んでいたA君が最後の頃は意欲的に取り組み自分のスペースを所狭しと文字で埋めていたのは望外の喜びであった。今年1年「新聞づくり学習」をして指導者として大きな喜びがあり、自分自身にも大きな学びがあった。

2本目:今こそ、「中心概念と単元の構造化」を活かした授業を!

池田義光

平成24年の関中社研&千社研船橋大会で我々は、社会参画力を育てる3本柱の一つとして「中心概念と単元の構造化」を基に授業改善に取り組もうと提案した。そのことで船橋に「中心概念と単元の構造化」やっと定着しつつあるというのが現状である。実は先日、中教協の役員から、若手もたくさん増え、24年のことを知らない人もでてきましたので、改めて「中心概念と単元の構造化」について講演してくださいという依頼を受けた。良い機会だと考えてお受けした。そしてお話ししたのが、標題の「今こそ、中心概念と単元の構造化を活かした授業を!」ということである。

はじめに

平成24年度関東ブロック中学校社会科教育部会研究大会・千葉県（船橋）大会

研究主題：社会参画力を育てる社会科学習の在り方

研究副題：「中心概念と単元の構造化」「問題解決型学習」「学び合い」を柱に

[1] なぜ「中心概念と単元の構造化」をするのか？

1 「中心概念と単元の構造化」とは

- (1) 「中心概念」とは＝その単元で学ばせたい本質的で中心的な理解事項
(2) 「単元の構造化」とは＝単元の中心概念をとらえさせるために、単元の知識・理解事項を構造的に配列すること

2 日々の授業のこんな悩みに……

- (1) 教えることが多すぎて時間が足りない
(2) 授業は教師のしゃべりが8割以上になってしまう
(3) なんでもかんでも大事に思えるのだが、何が最も大事かのポイントが押さえられない
(4) 何もかもたくさんの知識を教えようとするのですべてさらりと流す結果になってしまう
(5) 細かい知識を覚え込ませることが中心の授業になって、社会的な見方・考え方を育てられてい

るか、懸念される。

(6) 毎時間同じような教授型の授業になってしまう

3 「中心概念と単元の構造化」のねらい

- (1) 単元の中心となる知識・理解を確実に身につけさせ、社会的な見方・考え方を育てたい
- (2) 大事な知識・理解と枝葉の知識・理解を区別し、構造的な理解をさせたい
- (3) 単元構成(学習過程)をダイナミックにしたい→例えば、問題解決型学習

[2] 中心概念と単元の構造化」と授業づくり

◇ 授業づくりの手順

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 教材研究と教材分析 (授業づくりの基礎) |
| 2 | 単元を考える |
| 3 | 単元の中心概念を考える |
| 4 | 単元の構造化をする |
| 5 | 授業の構想を練る |

1 教材研究と教材分析

例) 「聖徳太子」をなぜ「教材」とするのか? 何を教えるのか? 聖徳太子」の学習価値は?

2 単元を考える

「教科書(教育出版の『中学社会 歴史』)」と「学習指導要領」を基に考えるのがよい

例) 第6章 近代の日本と世界	指導要領
1 明治維新と立憲国家への歩み ① 戊辰戦争と明治維新 ② 富国強兵の諸改革 ③ 殖産興業と文明開化 ④ 新しい国際関係の確立 ⑤ 自由民権運動と政党の誕生 ⑥ 憲法の発布と議会の開設	1 明治維新と立憲国家への歩み ④をカット
2 激動する東アジアと日清・日露戦争 ⑦ 対外危機の高まりと条約改正 ⑧ 日清戦争と三国干渉 ⑨ 義和団事件と日英同盟 ⑩ 日露戦争とその影響 ⑪ 韓国併合と辛亥革命	2 激動する東アジアと日清・日露戦争
3 近代の産業と文化の発展 ⑫ 日本の産業革命 ⑬ 社会問題の発生 ⑭ 明治時代の教育と文化	3 近代の産業と文化の発展

3 単元の中心概念を考える

例) 「明治維新と立憲国家への歩み」

(1) 「中心概念」の作成法

- ① 【事象総合法】 その単元でとりあげる社会事象から総合して「中心概念」を考える
- ② 【キーワード法】 その単元の本質をとらえるキーワードから「中心概念」を考える
- ③ 【指導要領法】 学習指導要領からその単元(題材)の「中心概念」を考える

(2) 「明治維新と立憲国家への歩み」の中心概念

- ① 【事象総合法】 「明治維新と立憲国家への歩み」で取り上げる社会事象から総合して「中心概念」を考える (例えば、教科書の太字)

戊辰戦争 五箇条の御誓文 版籍奉還 廃藩置県 四民平等 明治維新 富国強兵 学制 徴兵令 地租改正 殖産興業 官営模範工場 文明開化 板垣退助 自由民権運動 大隈重 信 自由党 立憲改進黨 伊藤博文 内閣制度 大日本帝国憲法 帝国議会

- ② 【キーワード法】 「明治維新」の本質をとらえるキーワードから「中心概念」を考える
 維新=激変 欧米化 近代化 国力充実(植民地化の危機脱出)

- ③ 【指導要領法】 学習指導要領から「中心概念」を考える

中学校歴史的分野の内容(5) 近代の日本と世界 イ 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

⇒以上から、単元の中心概念を考えると

明治政府が行った諸改革により、日本は欧米にならった近代国家の基礎が整えられ、国力が充実し、日本の社会と人々の生活は激変した。

4 単元の構造化をする 1時間ごとの授業をバラバラに考えないで単元の中で考える 例)「明治維新と立憲国家への歩み」

[単元の中心概念]

明治政府が行った諸改革により、日本は欧米にならった近代国家の基礎が整えられ、国力が充実し、日本の社会と人々の生活には劇的な変化があった。

[基本的事項]

「単元の中心概念」の柱となる理解事項 (⇒ 毎時間の知識・理解目標)
 <キーワード法: キーワードを散らして作成するとよい>

戊辰戦争と明治維新	富国強兵の諸改革	殖産興業と文明開化	自由民権運動と政党の誕生	憲法の発布と議会の開設
明治政府は旧幕藩体制を廃止し、新しい中央集権的な近代国家づくりを開始した。	新政府の政治は欧米に習った近代的な国家をつくり国力を充実させるものだった	新政府の様々な政策と殖産興業策は日本に文明開化という劇的な変化をもたらした	自由民権運動により日本にも欧米にならった立憲国家(近代国家)が準備された	憲法の発布と議会の開設により日本にも立憲国家(近代国家)の基礎が整えられた。

[社会事象] 基礎となる社会事象 (例えば、教科書の太字を参考に)

戊辰戦争の御誓文 五箇条の御誓文 還 廢藩置県 民平等	富国強兵 学制 徴兵令 地租改正	殖産興業 官営模 範工場 文明開化	板垣退助 自由民 権運動 国会期成 同盟 大隈重信 自由党 立憲改進黨	伊藤博文 内閣制 度 大日本帝国憲 法 帝国議會
--------------------------------------	---------------------	----------------------	--	--------------------------------

5 授業の構想を練る

(1) 「問題解決型」の学習過程を取り入れたい

①単元の学習問題: 「単元の中心概念」を基に「学習問題」を考える

例)「明治政府はどのような改革を行い、その結果、日本はどのように変わったか?」

②単元の終わりには、学習問題の解決として、「単元の中心概念」の達成度を評価したい

(2) 「基本事項」を毎時間の知識・理解目標として、時間の終わりに目標達成度を評価したい

[演習] 単元: 律令国家の形成と変質

単元: 日本の民主化と冷戦

- 教科書では5時間扱いなのに、「基本的事項が」3つになった
- 「基本的事項」と「基礎的事項」の関係は?
- 「中心概念と単元の構造化」に関して「学習指導案」ではどこを気を付けるべきか?

3本目: 知得ニュース 26

池田義光

イラク情勢について、をやりましたが、紙面の関係で省略します。

8月セミナー予定 8月末

今年も皆川征夫名誉会長の講演が実現します!
 日程は決まりましたお知らせします

<勉強会>は、プラウドタワー船橋1階入口 **3時**集合

[内容] 皆川征夫名誉会長の講演

※終了後 船橋駅周辺で 6:00頃から<懇親会>

⇒出欠席をできれば 2週間前までに池田宛てにお知らせください



プラウドタワー(船橋北口)

[お知らせ] 今年4月から、「社会科セミナー通信」の掲載及びセミナーへの出欠の連絡は、「船橋市社会科セミナー」のホームページで行っております。